

## 平成27年度第5回技術委員会（方法書第2回審議）及び追加提出の意見に対する事業者の見解

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
1	事業計画	佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1-1の図は減少傾向が見えない図になっている。もう少し目盛を調整して強調したらどうか。（片谷委員長）</li> <li>人口はほぼ現状維持であるが、人口減少以外にごみ減量化があるので、ごみ排出量についてはもう少し下がるという趣旨かと思われるが、事業計画に関するこうした図は準備書には掲載されるのか。</li> <li>6年経過して2%の減少というのは、今の日本の状況からすると、あまり人口減にはならない。人口は概ね横ばいで、むしろごみ減量化の効果の方が大きいということなので、説明を工夫していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>載せることは可能ですし、そのつもりでおります。</li> <li>【事後回答】</li> <li>長野県の統計によれば、安曇野市の平成27年中の人口増減率は-0.11%と県内19市の中では最も低い減少率となっており、減少幅が少ないのはご指摘の通りです。</li> <li>新施設の規模の設定根拠については、資料1-1に示すとおりです。近年の焼却処理量は横ばい傾向ですが、現有施設の建設時と比べるとごみの減量化が進んでいるため、現状の焼却処理量でも最大120t/日の施設規模で処理できる状況となっています。準備書では、事業計画として規模の設定に関する説明を加えます。</li> </ul>
2	事業計画	鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1-1の上のグラフについて、縦軸は排出量ではなくて人口で、単位も人ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦軸については間違いですので修正いたします。</li> </ul>
3	事業計画	鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1-1の上のグラフについて、人口が減っていないことを強調するならば、こういう書き方になる。何を言いたいかによって、記載を工夫すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【事後回答】</li> <li>No.1の事後回答のとおりです。</li> </ul>
4	事業計画	梅崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1-3で年台数になっているので、1日の台数と、搬入の時間が決まっていればその時間帯についても示していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【事後回答】</li> <li>現有施設の搬入状況は資料1-2のとおりです。平成26年度で搬入車両の台数が最も多かった日は9月9日（火）であり205台でした。最も受入台数が多かった時間帯は、8時台の39台でした。なお、受入時間は8:30から16:00となっています。</li> </ul>
5	大気質	片谷委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>方法書182ページの大気質の調査、予測、評価の方法で、上層気象について4季の調査を行うのは大変いいことだが、測定日の設定はだいたいいつ頃を考えているのか。</li> <li>春も雪が溶けてそう時間が経たない時期にさせていただくのがいい。せっかく四季をやられるのだから、夏は真夏に、秋は雪が降るより前に設定をしていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な日程についてはまだ検討していませんけれども、特に重要なのは冬の時期ではないかと考えております。冬に大気が安定で停滞するような時期がありますので、冬は厳冬期にやりたいと考えております。</li> <li>【事後回答】</li> <li>上層気象の調査時期については、冬季は1月に、春季は3月から4月初旬の間に実施する予定とします。また夏季は7月中旬から8月初旬にかけての間、秋季は10月から11月にかけての間に実施する予定とします。</li> </ul>
6	大気質 悪臭	梅崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1-4の断面図の書き方について、たいてい断面図を書くとき水平方向のスケールが変わってくるが、この図は合わせるができる。だいぶ見方が変わってくるので、なるべくスケールを合わせていただきたい。（片谷委員長）</li> <li>地形の違いがよく分かるような図にさせていただくことで、対応をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【事後回答】</li> <li>前回の資料1-4の断面図のスケールが間違っておりました。訂正した図と水平方向のスケールを合わせた図を資料1-3に示します。</li> <li>前回の資料1-4は、高さ方向の関係を見やすくするために標高を強調して示したものです。水平方向とスケールを合わせて作図すると、図のとおりになります。</li> </ul>
7	大気質 悪臭	富樫委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1-4の地形断面について、水平距離のゼロが一つ落ちているので、スケールは全然違っている。一対一のスケールにしてしまうと、標高がほとんど変わりなくなってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【事後回答】</li> <li>No.6の事後回答のとおりです。</li> </ul>
8	悪臭	片谷委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>方法書の200ページに予測の手法が記載されている。廃棄物搬入車両の予測は基本的に現況と類似事例ということだが、現況の施設には洗車設備はあるか。</li> <li>それは、新しい施設にも設ける予定か。</li> <li>そうであれば、現況と変わらないという予測が可能なので、現況と違いがないことが書かれていれば、あえて新たに予測しなくても済むかと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現況の施設には最後に洗車していただく設備があります。</li> <li>その予定です。</li> </ul>
9	悪臭	片谷委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>煙突からの悪臭については大気拡散式から予測することだが、この発生源データはどうやって決める予定か。</li> <li>類似施設の煙道の排出ガスのデータで予測をする計画ということか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献等をあたりまして、類似施設の測定事例を基に予測する予定です。</li> <li>そのとおりです。</li> </ul>

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
10	振動	塩田委員	・予測で使う土木研究所方式について、式で使う定数が新たに出てきている可能性があるため、平成26年版で国土総研から示されている式を使って予測していただきたい。	・承知いたしました。
11	低周波音	塩田委員	・環境省の手引書は使用せずに、環境省の風車の騒音等の検討会で使用しているDefraのものを利用するというので、そうした内容は環境省のホームページで分かるので参考にさせていただきたい。	・承知いたしました。
12	水質	小澤委員	・方法書の201ページについて、水質の調査項目の中の降雨時濁水項目の調査頻度で、「1回（降雨時、5回以上）」と書いてある。これはどういう意味なのか、また1回だとすれば少し足りないのではないかと思う。 ・降雨強度のできるだけ高いときを狙ってという説明だが、降雨時のような非定常的な状況を把握することになると、その振幅などもある程度把握するために、複数回の調査が必要である。	・強度の高い降雨時に、濁水の発生状況を時間を開けて5回以上サンプリングをして、濁水の流出状況やその変化の状況を捉えるという意味で記載しています。 ・1回が少ないのではないかと御指摘ですが、十分強度の高い降雨が採れば1回でいいと認識していたところです。 【事後回答】 ・非定常的な状況を把握する調査であり、複数回の調査が望ましいことはご指摘のとおりです。降雨時の濁水調査は複数回実施する計画とします。 ・調査対象としている赤川には水田からの流下があるため、水田の代掻きの時期（5月初旬前後）の降雨時に1回、台風に伴う強度の高い降雨時に1回を予定します。
13	植物	大窪委員	・資料1-7で、すでに方法書の121ページから123ページにリストアップされている植物と重複している種がかなりあるが、これは同じように扱っていくのか。	・基本的には現地調査で確認される植物種を一番重く扱います。こちらの事前の資料調査結果は、いずれも現地調査の参考として扱いますので、扱う重さとしては一緒です。こういう種が出るかもしれないということを念頭にきちんと現地を調べるということを想定している資料です。
14	植物	大窪委員	・資料1-7について、新たなリストアップで、何種類くらい注目すべき植物が追加されたのか。	【事後回答】 ・前回資料1-7に掲載した植物で、方法書P121-123の注目すべき植物のリストに入っていないものは資料1-4のとおり、22科27種です。
15	動物	中村寛志委員	・夜間照明に係る動物と生態系での予測方法について、例えば221ページで「対象事業の計画と結果の重ね合わせ」によると記載がある。今回は16時間から24時間稼働になるが、どのように夜間照明による影響を予測するのか、昆虫類の調査方法ではライトトラップによると書いてあるだけだが、教えていただきたい。特にここは三川合流地帯なので、水生生物の成虫が多く来る可能性もある。 ・予測の中に夜間照明がどれだけ増えるかなどの条件も入れて、準備書の中で考えていただきたい。このままだと、24時間稼働になるので確実に照明の影響が出るという予測になってしまう。	・夜間照明についてですが、施設が24時間稼働となっても、夜中にずっと街灯が点きっぱなしですとか、施設から光が漏れ出しっぱなしとは限らない訳です。どのような施設を計画して光の影響を少なくするかということが、定性的な予測の内容になってくると考えております。 ・承知いたしました。
16	動物	中村雅彦委員	・猛禽類の調査について、古巣や食痕等の確認のみの調査ではなく、年間の煙突等の利用状況を把握し、その結果を踏まえて定点調査の代わりとなる調査手法を選定すること。	【事後回答】 ・鳥類調査では年5回（春季、初夏、夏季、秋季、冬季）ラインセンサス法及びポイントセンサス法の調査を実施するため、これと同時に周辺での猛禽類の生息状況の調査を行います。 ・併せて、鳥類や動植物以外の調査時にも猛禽類の生息確認に努め、1回/月、半日程度の調査時間を設けるように努めます。
17	景観	亀山委員	・この場所が大町・白馬方面への観光ルート上に位置している場所だということ、しっかり認識していただきたい。特にここは、道路が直角に曲がるので、すごく視認性が高い場所である。観光客にとっては非常に良く目につく場所なので、それを意識して景観のことを考えていただきたい。	・確かに観光ルートではありますが、大王わさび農場から橋を渡ればすぐに抜けてしまう場所という風に私どもは認識しています。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
18	景観 触れ合い 活動の場	亀山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>方法書126ページの主要な視点場、あるいは触れ合い活動の場にも関わるが、この中で、例えば、わさび農場のすぐ近くの穂高川沿いに少し登ったところに、早春賦の歌の記念碑があり、かなりお客さんが来る場所である。あそこは正面にこの処理場が見える場所なので、きちんと入れておいていただきたい。</li> <li>明科の龍門淵公園も犀川沿いの風景のいいところで人が良く集まる場所なので、こういったところをもう少しきめ細かくみて、フォトモンタージュを作っていただきたい。</li> </ul>	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>龍門淵公園とあやめ公園は隣接しており、視点場としては一体のものとみなせますが、別の公園であり、準備書の段階では別々に記載します。</li> <li>観光ガイドマップ等を参考に、再度半径4km圏内の観光資源を確認しました。半径4km以内の主な観光資源を挙げると資料1-5のとおりです。観光資源のうち、屋外利用が多いと想定されるものを中心に、準備書の段階で資料調査の結果として主要な視点場を追加します。</li> <li>追加する主要な視点場には、対象事業実施区域を望める場所が複数ありますが、方法書で設定した景観の調査地点で代表できると考えます。西側の早春賦歌碑には調査地点を設けていませんが、これは現有施設と新施設の見通し方向がほぼ同じであり、景観上の大きな変化が想定されないためです。</li> </ul>
19	廃棄物等	片谷委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>方法書231ページの廃棄物について、予測手法の表の中には発生量だけが記載されており、再資源化の計画が反映されていない様にみえるが、再資源化をどのように扱うのか。</li> <li>再資源化率を何らかの基準にしたがって設定し、それを予測に入れることを書いていただく必要がある。これだと発生した量が全部廃棄物になるかの様にみえてしまうので、そこを分かるようにしておいていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再資源化については、事業の計画の中で目標を設定することになるかと思えます。それを基に予測の中に入れていく予定です。</li> </ul> <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建設工事に伴い発生する廃棄物については、方法書232ページに長野県建設リサイクル推進指針を参考として環境保全目標を設定する旨を記述しています。同指針では、「地域の状況を踏まえた再資源化等の目標」としてコンクリート塊、建設発生木材、アスファルト・コンクリート塊について再資源化（等）率を掲げているため、これを参考として、再資源化率を環境保全目標として設定する予定です。</li> <li>工事に伴う廃棄物の再資源化については、事業計画の中で再資源化率を設定し、工事の仕様として建設工事の請負業者に求めていく予定です。</li> </ul>
20	温室効果ガス等	片谷委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>温室効果ガスについて233ページに書かれているが、ごみを燃やす施設なので温室効果ガスが発生するが、発電を行えば火力発電の発電量が減るといふ効果がある訳だが、それはどのように反映させる計画なのか。</li> <li>売電した分が明確に分かれて数字として出てくるように、個別の値を明確にしておいていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発電した分については、まず施設の使用電力の減少分として、その温室効果ガス等の削減分として別途計算いたします。それに加えて売電の部分についてもプラスの効果ということで別途計算して、トータルの形でお示ししたいと考えております。</li> </ul>
21	その他	富樫委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>この場所は地震への対応が重要になるので、どういう考えで対応するかきちんと示していただきたい。その際に、活断層のための調査というところまでは要求できないが、基本的に、今どこまで分かっているか、それに対してどのように考えて建設するのかということを示していただきたい。</li> <li>(片谷委員長)</li> <li>施設計画の具体的な設計が進むので、その中でどのような防災対策がなされるか、関連情報として記載していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水害の対策と併せて、地震に対する対策についても準備書の段階で記述してまいります。</li> <li>公表されています産総研の活断層マップ等を準備書の段階では使って、地震に対する備えも災害対策という形で記載させていただくことを考えております。</li> </ul>
22	その他	中村雅彦委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォームを2階にして浸水に耐えられるようにということだが、事業の内容の基本方針の6番目は、「地震等の災害に対し、耐震性を確保し、防災拠点の機能を持つなど、災害に強い施設」となっており、地震への対応についてお答えいただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震に対する対策につきましても、今、基本計画で検討中であり、方法書に記載した以上の内容は今のところありませんが、準備書の段階では改めて記述したいと考えております。</li> </ul>
23	その他	亀山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>方法書の30ページの都市計画の記載について、安曇野市は独自の条例を作って土地利用計画と土地利用規制を行っている。この記述は間違いとは言えないが、この場所がどのように土地利用計画上位位置付けられているか分からないので、条例と条例に基づく都市計画の図を載せていただきたい。景観に関しても条例を作って景観計画を持っているので、これも関係する法や条例のところに載せていただきたい。</li> <li>都市計画法がかかっているのが都市計画決定というのは存在するが、条例に基づいて独自に土地利用の計画を決めている。そちらの方が安曇野市は優先して適用されるので、条例に基づく土地利用の状況をきちんと把握しておいていただきたいという趣意である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員おっしゃるとおり独自の条例という形で対応しています。都市計画決定はこれから市の審議会に付して、28年度に計画決定したいということもございまして、準備書の段階ではその辺の内容をしっかりと記載していきたいと思っております。</li> </ul> <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>方法書では土地利用及び景観に関する条例について記述に不十分な点がありました。土地利用に関する条例の概要を資料1-6に、景観に関する条例の概要を資料1-7に示します。</li> </ul>